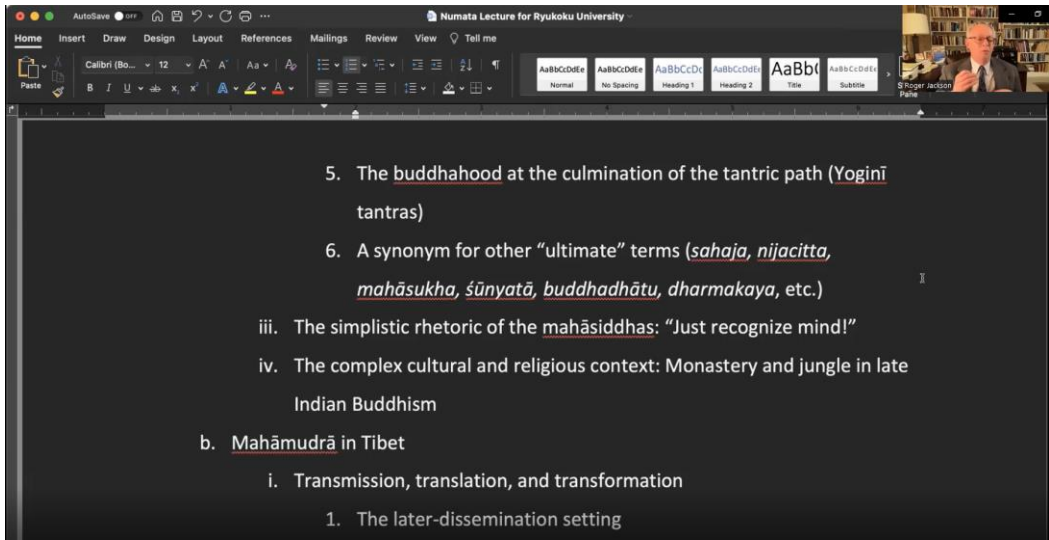

❖ 講演会・研究セミナー ❖

沼田智秀仏教書籍優秀賞受賞講演会

**The Appeal of the Great Seal:
Mahāmudrā in India, Tibet, and the West**

2022 年 2 月 8 日 (火) 10:00～11:30

オンライン開催 (Zoom)



講演会の様子

❖ 概 要 ❖

沼田智秀仏教書籍優秀賞受賞は、特に西欧における仏教研究の発展を支援するために、2009 年に設立された。毎年、英語で執筆された仏教学術書の中から優秀な作品が選定されている。2020 年度は『Mind Seeing Mind: Mahāmudrā and the Geluk Tradition of Tibetan Buddhism』（Wisdom Publications、2019 年）を上梓したロジャー・R・ジャクソン氏（カールトン大学名誉教授）が受賞した。2022 年 2 月 8 日、受賞を記念し、当センターではジャクソン氏をオンライン講演会講師として招聘し、「The Appeal of the Great Seal: Mahāmudrā in India, Tibet, and the West」と題した記念講演会を開催した。

講 演 者：ロジャー・R・ジャクソン 氏（カールトン大学名誉教授）



ジャクソン 氏

本講演会では、マハムドラーと呼ばれる後期密教の修行の最終段階がインドやチベット、現代西洋でどのように捉えられているかについての開設が行われた。ジャクソン氏は、まず、チベット仏教の主要宗派の一つであるカギュ派を確立した僧侶・ガムポパの最後の教えについてのエピソードに触れた。ガムポパ入滅の直前、ある人物が難解な密教修法の伝

授を願ったが聞き入れられなかった。しかしその人物の後、在家者がマハムドラーの伝授を願うと聞き入れられたというものだ。この伝承の主題として複雑性と単純性の関係が挙げられるという。マハムドラーは単純な教えとして複雑難解な教えより尊いと位置付けられているとジャクソン氏は言う。実のところ、単純な実践の背景には複雑な思想や修法があり、一概に二分法的に語れるものでないことにも言及されたが、この単純性はマハムドラーの求心力となっているという。

「マハムドラー」の語が現れ始めるのは8世紀以降に成立した後期密教聖典の中である。ここでこの語は様々な意味で使用されている。例えば、儀礼における印相、自身の肉体の仏身と観念すること、修法における女性の肉体、密教修行の悟りの境地などである。また、ヨガとタントラの実践者の大成就者は、マハムドラーの実践を「ただ心を見ること」と表現している。

9世紀になるとマハムドラーはチベットに伝来し瞑想法として系統立てられた。そして、カギュ派では主にガムポパによって系統立てられ、整理され、教えの中心的位置を占めることになった。カギュ派にとってマハムドラーはその単純さの魅力に加え、その教えがインド起源の仏教の伝統を受け継いでいる証明となるという意味でも重要であった。

また、あまり知られてはいないものの、チベット仏教の別の宗派のゲルク派においてもマハムドラーは重要な教えの一つとなっている。ゲルク派の始祖のツォンカパはカギュ派の師からマハムドラーを学んだ。後に、ゲルク派ではその教えが明文化されていく。ここではカギュ派のマハムドラーがゲルク派的に解釈されているという。マハムドラーは権威ある教えであり、競合するカギュ派の教えを取り込むことはゲルク派にとって意義があった。

加えてジャクソン氏は、現代の西洋に受容されたマハムドラーについても言及した。半世紀以上前にチベット語の宗教書が訳され、一般にも読まれるようになり、またマハムドラーの研究も進められてきた。さらに西洋の仏教センターのチベット人僧侶がマハムドラーの実践を行い、現地の僧侶にも伝授している。単純性の魅力は西洋におけるマハムドラーの捉えられ方にもつながっているとジャクソン氏は指摘する。マハムドラーの実践は複雑性を超え文化や多様性の向こう側にある普遍的な真理へ到達させるものであるというイメージを与えているのだという。

コメンテーターの根本裕史氏（広島大学教授）は、ジャクソン氏の受賞書籍を簡潔に紹介し、マハムドラーはカギュ派の教えとして広く認識されているが、ゲルク派がどのように解釈し自らの教えに組み込んだのかを明らかにしたこと、ゲルク派のマハムドラーにつ

いての著作の英訳が多く掲載されていることを高く評価した。また、「時間」という視点からカギユ派とゲルク派のマハムドラー観の違いを述べた。さらに、ゲルク派においては、マハムドラーの教えが受容されて以降、それまでのインド的な賛歌とは異なるスタイルの宗教賛歌が多数生み出されたことにも言及した。

講演会終了後も登壇者らによって意見交換などが続けられた。



根本 氏